

2005年1月1日～2024年12月31日の間に帯広協会病院

泌尿器科において陰茎折症の治療を受けられた方へ

— 「道内における陰茎折症発症に関する検討」へご協力をお願い —

1. 研究の概要

1) 研究の目的

陰茎折症（陰茎が勃起しているとき外から力が加わり折れてしまった状態）と診断された方の患者背景、治療内容、成績などを調べ、今後の治療や発症予防に役立たせていくことがこの研究の目的です。また、北海道内の関連施設のデータを合わせて解析を行い、治療内容、原因などに偏りが無いかを検討いたします。

2) 研究の意義・医学上の貢献

これまで帯広協会病院泌尿器科および道内の医療機関で陰茎折症と診断された方の治療内容、成績、発症原因を把握することにより、今後の治療や予防の参考にすることが出来ます。

2. 研究の方法

1) 研究対象者

2005年1月1日～2024年12月31日の間に帯広協会病院泌尿器科において陰茎折症の治療を受けられた方が研究対象者です。（道内の関連医療機関で同じ期間に陰茎折症の治療を受けられた方を含めた多機関共同研究です。）

2) 研究期間

病院長承認後～2027年3月31日

3) 予定症例数

当院で2人を予定しています。共同研究機関を含めて全体で200人を予定しています。

4) 研究方法

2005年1月1日～2024年12月31日の間に当院ならびに共同研究機関において陰茎折症の治療を受けられた方で、研究者が診療情報をもとに、患者背景、治療内容、原因などのデータを選び、これらに関する分析を行います。

5) 使用する情報

この研究に使用するのは、研究機関のカルテに記載されている情報の中から以下の項目を抽出し使用させていただきます。分析する際には氏名、生年月日などのあなたを特定できる情報は削除して使用します。また、あなたの情報などが漏洩しないようプライバシーの保護には細心の注意を払います。

身体所見（身長、体重等）、問診所見（発症契機（性交渉（体位、パートナーについて）、自慰、習慣的行動、その他）、発症場所（自宅、ホテル、風俗店等）、音の有無、等）、画像診断（超音波検査、MRI等）、臨床検査（血液、尿）、診察所見（陰茎所見、色調、屈曲側、尿道損傷の有無等）、治療内容および手術所見（術式、白膜断裂長、尿道剥離の有無、処方内容等）、治療後経過、再発の有無、合併症、家族歴、既往歴

6) 情報の利用開始予定日

情報の利用を開始する予定日は2025年4月1日です。

（オプトアウト期間 病院長承認日から2025年3月31日）

7) 情報の保存、二次利用

この研究に使用した情報は、研究の中止または研究終了後5年間、札幌医科大学医学部泌尿器科学講座内および共同研究機関で保存させていただきます。電子情報の場合は、パスワード等で管理・制御されたコンピューター内に保存します。その他の情報

は施錠可能な保管庫に保存します。なお、保存した情報を用いて新たな研究を行う際は、臨床研究審査委員会にて承認を得ます。

8) 情報の管理について責任を有する者の氏名又は名称

札幌医科大学附属病院 病院長 渡辺 敦

9) 研究結果の公表

この研究は学会や論文で発表します。その際も氏名、生年月日などのあなたを特定できるデータは一切含まないようにします。

10) 研究に関する問い合わせ等

この研究にご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。また、あなたの情報が研究に使用されることについて、あなたもしくは代理人の方にご了承いただけない場合には研究に使用しませんので、2025年3月31日までの間に下記連絡先までお申し出ください。お申し出をいただいた時点で、研究に用いないように手続きをして、研究に用いられることはありません。この場合も、その後の診療などの病院サービスにおいて患者さんに不利益が生じることはありません。

ご連絡いただいた時点が上記お問い合わせ期間を過ぎていて、あなたを特定できる情報がすでに削除されて研究が実施されている場合や、個人が特定できない形ですでに研究結果が学術論文などに公表されている場合は、解析結果からあなたに関する情報を取り除くことが出来ないため、その点はご了承ください。

<問い合わせ・連絡先>

帯広協会病院 副院長 泌尿器科

岡田 学

TEL 0155-22-6600 FAX 0155-24-7076